

(令和3年1月試験研究業務月報)

タスクチームテーマ名：小豆の雑草・排水への体系的対策による平均単収100kg/10aどりの達成

情報

小豆の雑草・排水対策の技術普及に向けてタスクチーム会議を開催

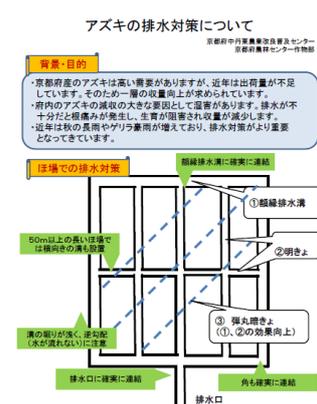
京都府における丹波大納言小豆生産では、集落型法人を中心にコンバイン収穫に適する狭条密植栽培が普及しています。しかし、小豆に登録のある除草剤が少なく、また、密植であることから中耕・培土^{※1}が行えないため、雑草の防除が困難となってきました。さらに、営農の大規模化により、排水対策が適正に行われていないほ場も見られます。

そこで、今年度は、当センターで開発した雑草防除技術を現地で実証するとともに、基本的な排水対策の励行を呼びかけることにより、収量確保を目指したタスクチーム活動^{※2}を行ってきました。

会議では、地域のモデルとなる実証ほ場で、除草や排水の効果により増収したことが確認されました。あわせて、実証技術を判りやすく取りまとめたマニュアルを作成し、来年度からの普及活動に活用することが申し合わされました。

※1 中耕・培土：除草、土の通気性向上、作物の倒伏防止等を目的として、作物の生育中に土壌表層を浅く耕うんし、作物の茎下部を土で覆う作業

※2 タスクチーム活動：研究機関と普及組織等の総合力を発揮し、生産者を伴走支援することで現地課題を早期に解決する活動



左：タスクチーム員が集まったの検討会議、右：作業マニュアルの作成案（抜粋）